



2021年11・12月号
号外 11
2021

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX.06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

二〇二三年 聖徳太子一四〇〇年御聖忌記念



新縁起

回 四天王寺を担う人々 第 衆徒のこと



四天王寺 勸学部
文化財係主任・学芸員
一本崇之

四天王寺の近世文書をみていると、文書巻末に「二舍利〇〇／二舍利〇〇／秋野（坊）〇〇」と署名されているものが多くあります。これらは「衆徒（しゅうと）」と呼ばれる四天王寺の僧侶の代表者です。衆徒は、四天王寺の法要を担い、学問に励む「清僧（せいそう）」と、経理など寺務を担当する「秋野坊」に区分されます。

清僧と秋野坊は、その立場の違いもあって、対立することも多かったようです。四天王寺は、寛永2（1625）年に寛永寺の末寺となっており、清僧と秋野坊の間で大小の紛争が起るたびに本山である寛永寺に指導を仰ぎ、問題解決を図ってきたことが「御條目御達書写」などの史料によってうかがわれます。この御達書をみていると、寄進された金銀の配分や、僧侶の着座の順番、着用する衣や袈裟の種類にいたるまで、細々と寛永寺の許可を得ていたことがわかります。

また『四天王寺法事記』などの記録をみると、法会での役割においては、一舍利・二舍利が舍利職として金堂の仏舎利をつかさどるのに対し、秋野坊は三綱（さんこう）という立場で聖徳太子に奉仕する役割を担っていたことがうかがわれます。例えば、涅槃会（ねはんえ）などの大会において聖霊院から六時堂へ太子像を遷座する際、鳳輦に太子像を載せる

役目や、聖霊会において太子のお目覚めの儀式である「御上帳（みじょうちよう）」も三綱の役目となっています。さらに聖霊会では、法会の前日に宝蔵から本尊の「楊枝御影（ようじのみえい）」を出し、一晩、秋野坊が自坊にて預かったのち、当日の朝、六時堂に安置するというしきたりもありました。小野妹子の末裔という系譜と関係するのかもしれないですが、このように役割が明確に区分されている点は四天王寺の信仰を考えるうえでも興味深い事実です。

四天王寺の衆徒については、これまで不明な点が多かったのですが、近年史料の整理も進みその実態が少しずつ明らかになってきました。寺の運営を担っていた人々の動静をたどることで、近世四天王寺の様相が今後さらにはっきりとしてくるでしょう。



摂津国四天王寺図（部分/四天王寺蔵）



上町らくご植物園

植物が登場する落語を取り上げ、演芸評論家の相羽さんならではの面白い視点で読み解きます。

第30折 上方落語「ちしや医者」

食卓の天使―萵苣

医者宅に急患の知らせが届く。緊急なこととて駕籠（かご）の担ぎ手がないので、下男と知らせにきた村人が担いで患者宅に出発する。途中で、患者の死が伝えられると、村人は「用が済んだ」と、駕籠を放つてどこかへ行ってしまふ。そこへ糞尿を汲む農夫が通りがかり、替わって担ぐ。途中で老婆の棲む家で肥後みを終えたと老婆が「御礼に何をくれる」と言うので、農夫が「駕籠の中に医者がいるので今度持つてくる」と言う。老婆は「チシャ」と聞き違い、駕籠に歩み寄る。すると医者の足が出てきて老婆の胸を蹴り老婆は目を白黒させる。それを見た下男「足で良かった。うちの先生の手にかかると命が危ない」。

萬苣の漢字を当てるチシャは、洋名をレタスという。サラダ菜とも呼ばれている。今日では、レタスの方が通りがいい。レタスの原産地はアジアからヨーロッパにかけての広い地域で、日本では明治以降に普及した。西欧料理がさかんに紹介され、その存在が目されるようになった。

種類が4つあって、まずヘッドインングレタス。玉チシャと日本的にいう。リーフレタスは一般にサニーレタスと呼ばれる、葉チシャのことである。コスレタスは立ちチシャとも呼ばれる。さらにカッティングレタス。掻きチシャとの別称がある。総じて、結球性のあるのがレタス、非結球性なのがサラダ菜（チシャ）のイメージだ。新キャベツをレタスと見間違えることがある。



NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

各種予約・お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06-6779-7222

無料相談会開催
変更のお知らせ

なかなか相談できない住まいと暮らしの「困った!」はありませんか? 「住まいと暮らしの無料相談会」では当法人会員の弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士が相談に応じています。

11月1月は、定例開催場所の市立社会福祉センター会議室が改装工事のため当法人事務所へ随時対応します。電話もしくはHPよりお申し込みください（受付は10〜15時。土日祝は休業）。来年2月より再び第2土曜日午前10〜12時に定例開催します。

主催：NPO法人まち・すまいづくり
（社会福祉センター指定管理者）
電話：06-6779-7222
住所：天王寺区勝山1-11-29
（四天王寺東大門前）
後援：天王寺区役所

うえまち本
歴博で販売

まち・すまいづくり編集・出版の刊行物（左記）が、大阪歴史博物館で好評販売中です。

- 上町台地名所百景
- うえまち上町台地を想い観る
- うえまち第二集上町台地と大阪夏の陣
- 夕陽丘まち談義「都市デザイン」の資源発掘
- うえまち「大坂の陣」特選集大阪の陣
そのとき一心寺は

うえまち寄席

11月27日（土）14時開演

桂佐吉、桂ちようばによる、上方落語発祥の地・上町台地にふさわしい、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET（チケット）」からも予約可能です。

場所：一心寺南会所天王寺区逢坂2・7
入場料：2000円



2021年11・12月号
号外 12
2021

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX.06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

二〇二三年 聖徳太子一四〇〇年御聖忌記念



新縁起

第30回 宝蔵とその宝物



四天王寺 勸学部
文化財係主任・学芸員
一本崇之

正倉院や法隆寺の綱封蔵（こうふうぞう）のように、寺院には宝蔵と呼ばれる宝物の収蔵施設が必ず設置されており、四天王寺も例外ではありません。古くは校倉（あぜくら）造の蔵が存在していたことが知られ、近世の絵図には、高床で2棟の校倉を中央が吹き抜けとなるようにつなげた双蔵（ならびくら）形式の蔵が描かれています。現在、本坊南側にひっそりと建つ宝蔵【写真】は、享和元（1801）年の雷火の後に再建されたもので、「釘無堂（くぎなしどう）」と通称され、大阪に遺る稀少な近世校倉として大阪市指定有形文化財に指定されています。

古来、宝蔵に収められる什物はお寺にとって特別な存在でした。それゆえ、寺の由緒を紹介する史料にはかならず「宝物目録」が収録されています。比較的早い時期の「宝物目録」（『四天王寺年中法事記』貞享2（1685）年所収）に列記される宝物をあげてみると、『四天王寺縁起』根本本（国宝）・同後醍醐天皇宸翰本（国宝）・扇面法華経冊子（国宝）・細字法華経（重文）・楊枝御影・懸守（かけまもり。国宝）・緋御衣（ひのみころも。重文）・達磨大師袈裟（現存せず）・鳴鶴矢（重文）・丙子椒林剣（へいししよりり



現在の宝蔵

んけん。国宝・七星剣（国宝）・京不見御笛（きょうみずのおふえ）・閻浮檀金弥陀三尊（光背のみ重文）・千手観音箱仏（重文）・千本琴の品々で、これらは以後の宝物目録にも必ず記載され、数ある什物の中でも最も重要なものと位置付けられていました。そのほとんどが現在、国宝・重要文化財に指定されています。このなかでも、聖徳太子が実際に所用していたと伝えられる『四天王寺縁起』根本本・丙子椒林剣及び七星剣・懸守・細字法華経・緋御衣・京不見御笛・鳴鶴矢の七件の宝物は、「太子伝来七種の宝物」と呼ばれ、さらに別格の扱いを受けてきました。これらは、四天王寺における太子信仰の核となった宝物であり、太子の寺であることの証ともいえる「聖遺物」なのです。この七種の宝物は、四天王寺が「太子からお預かりしている」という形をとり、宝蔵では毎年元日の朝、太子より七種の宝物を預かる儀式である「朝拜式」が行われています。

この他にも、天王寺楽所俗人の東儀家より寄進された蘭陵王・納蘇利の古面や、遠江法橋筆の聖徳太子絵伝（いづれも重文）などが近世になつて宝蔵に新たに収められています。元禄5（1692）年には、柏原市にある安福寺の浄土宗僧・珂憶（かおく）上人より、総数144点に及ぶ大規模な宝物の寄進を受けています。このように各時代を通じて寄進された宝物が収蔵され、多様な「四天王寺宝物」を形成していきました。

このヘンテコリンな名前は、果実が熟しても口を開かないところから名付けられた。梔子、山梔子などの字を当てる。洋名をガーデニアという。花名とはうらはらに、夏に可憐な白の大輪花を咲かす。西日本・中国・インドシナなどの温暖地で自生する。『古今和歌集』にもその名が見えるので、古くから愛されていたのだろう。八重咲・細葉・丸葉・斑入の種類がある。

果実は熟すると紅黄色になり、そこから採った黄色の色素は染料になる。また乾燥させた果実は、漢方薬「山梔子（さんしし）」として知られている。さらに、果実を煎じた汁で炊く黄色の飯は「梔子飯（くちなしめし）」もしくは「黄飯（おうはん）」と呼ばれ、熱を下げるために食べた。ちなみに、小豆（あずき）を炊いた米飯が「赤飯」。南天の葉で黒く染めた「黒飯（こくはん）」もある。



※「帯を解くくちなしの闇恐れつつ」「山梔子の実のみ華やぐ坊の垣」といった俳句が詠まれている。梔子の花を物言わぬ花として詠まれた和歌に「鶯（う



上町らくご植物園
植物が登場する落語を取り上げ、演芸評論家の相羽さんならではの面白い視点で読み解きます。

開園 第31折 上方落語「物言う花」

へんな名前―梔子

ある男、植木屋をからかってやろうと、「物を言う花はあるか」とやって来た。植木屋が「うちの花は、みんな物言う花や。嘘やと思もたら声を掛けてみい」と言うので、男は、花に向かって名前を尋ねる。「おまえは何の花や」「桜です」と返事が返ってくる。男は興に乗って「おまえは？」「梅」「おまえは？」「菊」と、どの花も返事をする。中に一つだけ返事をしない花がある。「おやっさん、こいつは物言わへん」、植木屋「あつ、そいつは梔子（くちなし・口無し）や」。

（ぐいす）の声と呼ばれてうち来れば、物言わぬ花も人招きけり」がある。梔子の花は、歌謡曲の世界でも有名になった。花があれば草もある。「くちなし草」は、果実の形が似ているためのネーミングだ。

「梔子」と掛けてメガネと解く、その心は口が無くても鼻（花）があればよい。（開園）

※「上町らくご植物園」は今回で閉園です。次回より新シリーズがスタートします。

大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

数字を使って
説得力を高めよう

来月の営業会議は、少し早め開始することによしよう。

このような文章のメールをもらったら、あなたは何分早く会議室に行きますか？10分でしようか、30分でしようか。なかには1時間早くという人もいるかもしれません。本連載ではしばしば「明快さ」を取り上げました。今回は明快さがテーマで「数字に置き換えられるところは、可能な限り数字で示す」です。先の文も、次のように直せば混乱は生じません。

来月の営業会議は30分早めの、10時30分から開始することによしよう。

数字は具体性の極致。「明快さ」だけでなく、説得力も高めます。「急成長」ではなく、「3年で売上が2倍」と書けばその会社のすごさがよくわかる。「とても高いビル」と「40階建てのビル」ではまるでインパクトが違います。「とても」や「すごい」「大きい」「高い」「少し」などが出てきたときは注意しましょう。数字を使った書き直しができないか、検討してみてください。

※本連載は「うえまち号外」掲載分以外も、Webでご覧いただけます（「フット うえまち」で検索）。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。